



新規就農者育成へ 夏秋ナス農業塾

J A 広島中央地域は、夏秋ナス農業塾で新規就農者の育成に取り組んでいます。露地作で収益性の高いナスの振興で生産者の所得向上を目指します。

農業塾は6月に開講し、最終回の12月まで毎月1回開き、9人が受講しています。J A 営農支援課の橋本孟治係長が講師を務め、管理や作業のポイントなどを伝えます。

8月上旬に東広島市園芸センターで開いた農業塾では、9月に収穫量が増えるよう切戻りや摘芯の仕方などを確認しました。

受講者の佐々木彰さんは「J A の指導や、他の受講者の意見が参考になる。再来年からの出荷を目指したい」と話します。



▲ナスの栽培を学ぶ参加者

シソジュース・シソふりかけ講習会 女性部営農部会

J A 女性部広島中央地区本部営農部会は8月1日、東広島市でシソを使ったジュースとふりかけの料理講習会を開きました。

ジュースには砂糖を使わず、りんご酢やみりん、蜂蜜などを使用。シソを煮出して赤シソジュースと青シソ栄養ドリンクを作りました。

絞って不要となったシソは再利用してちりめんじゃこなどを入れて調味し、ふりかけにしました。

同部会の内山和子部会長は「シソジュースは砂糖を多く使うレシピが多いので砂糖無しのレシピに挑戦した。」

シソは栄養価も高いので無駄なく食べてもらいたい」と話しました。



▲ふりかけとシソジュースを作った参加者

ナス収穫・出荷を体験 B G 塾とJ A 青壮年広島中央地区本部

J A 青壮年連盟広島中央地区本部は8月20日、東広島市教育文化振興事業団が運営する黒瀬B G 塾の児童12人を対象に、農業体験を開きました。J A 広島中央地域で特産の中長ナス「なす坊」を収穫し、パッケージしてJ A 産直市「となりの農家黒瀬店」に出荷しました。

B G 塾は、学習やスポーツ、地元での体験活動を提供する夏休みの子育て支援事業。自然体験活動を通じた郷土教育の取り組みに同本部が協力しました。

黒瀬町の5 a でナス225本を栽培する部員の神信桂さんの畑で収穫。神信さんに収穫の大きさを目安を教えてもらいながら、ハサミを使って枝から切り取りました。袋に詰め、ナスをP R する



▲ナスを袋詰めする児童

ラベルシールを手書きしてパッケージに貼り付け、産直市に持ち込んで店頭並べました。

参加した児童は「立派なナスの畑を初めて見た。収穫できて楽しかった」と喜びました。同部の北台昇平委員長は「子どもたちに農業の喜びを味わってもらうことで食の大切さも知ってもらいたい」と話しました。



▲産直市でナスを並べました



▲ナスを収穫する児童

なるほど え〜のう! 営農情報

水 稲

10月からの管理について

「シシヒカリ」などの早生品種の稲刈りが終わり、「あきさかり」「中生新千本」「あきるまん」「恋の予感」の稲刈りも終盤となりました。今年は気温が高い日が続き、生育も全体的に早くなりました。刈り取り後は、来年に向けての土づくりが始まりますが、できるだけ暖かい時期に開始しましょう。堆肥や土壌改良資材の散布、石灰窒素、「アグリ革命」などの稲わら腐熟促進資材を散布し、浅めに耕起（荒起こし）を行ないましょう。

また、食味診断や土壌診断を行ない、来年の栽培に活かしてください。食味診断、土壌診断については、各地域のアグリセンターにご相談ください。

◆収穫後の管理

●秋の耕起作業



刈り取り後、まず行なうのが秋の耕起作業です。「作物生産の基本は土づくりにある」と言われ、十分に管理された水田では、気候変化や病害虫にも強い丈夫な稲になるとされています。特に近年、異常気象が続きますので重要な栽培管理となります。稲わらにはケイ酸が含まれており、地力向上には欠かせない大事な栄養素です。しっかりと腐熟させて養分を含んだ土にするため、早めに耕起を行ないましょう。

稲わらの腐熟を促進するには、温度・水分・酸素が必要で、特に温度が重要です。稲わらなどの有機物を分解する微生物の動きは気温により変化する、15℃以上の地温で活発に活動

します。稲わらは水分を含んでいるため温度が高いと分解も早いです。また、耕起により土中へ多くの空気が入ることで微生物の動きはさらに活発化し、水田の通気性、通水性、保水性が増します。春までに耕起しない場合、稲わらは腐熟しきらず、田植え後に有機ガスを発生させ、稲の根を傷めて初期生育が遅れる原因となってしまう。気温の下がりきらない10月中に耕起を行なうようにしましょう。

●すき込み方法

稲わらのすき込みは腐熟促進のため、最初は浅めに行ないます。年内に再度すき込む場合は、ゆっくり深く行ないましょう。排水が悪い圃場では、稲わらの分解が進みにくくなるので溝をつけるなど排水対策を行ないましょう。

●圃場均平化について

圃場には高低があり、高いところでは除草剤の効果が薄れて雑草が発生しやすくなります。代掻きで土を動かしますが、これだけでは十分ではありません。年内に行なうすき込

◆米出荷時のお願い

各地域のアグリセンターでは、米の出荷を受付けています。1袋でも多くの出荷をお願いします。

また、出荷申込時に「水稻栽培日誌」「JA米生産者自己点検チェックシート」の提出も併せてお願いします。米の集荷もJAで承っています。詳しくは、各地域のアグリセンターまでお問合せください。



野菜

秋冬野菜の栽培について

秋の深まりとともに、種まきの時期が終わる品種があります。まき遅れは生育不良につながり、生産量や収穫量が減少します。種袋などの暦を確認しましょう。温度が下がるにつれて害虫は減少していきますが、予防を心がけましょう。

◆ネキリムシ（カブラヤガ・タマヤナガなど）に注意

蛾の幼虫で、地中に潜み、夜間に植え付け直後の野菜苗や発芽した芽を食害し、切り倒す特徴があります。作付け前に薬剤の予防散布を行ない、作付け後も観察して対策をしましょう。

●防除例

作付け前	「ダイアジノン粒剤5」を土壌混和（4kg/10a播種または定植時に1回）
作付け後	「ガードベイトA」を株元散布（3kg/10a播種時から生育初期まで4回以内）

※「ガードベイト」は、害虫が食べる誘因殺虫剤です。降雨があると薬剤が溶け出し効果が落ち始めるので再度、散布してください。散布回数には作物により異なる場合がありますので注意してください。

◆土壌診断のすすめ

●土壌の健康診断

野菜生産は、水稻以上の肥料が必要となる場合が多いですが、養分が過剰になりやすい傾向にあるため、土壌の健康状態は水田以上に注意が必要です。

近年「土壌のメタボ化」といわれるように、養分蓄積が問題視されています。施肥コストもかかるため、農閑期を利用して今一度、土壌の健康状態をチェックしてみたいかがでしょうか。少なくとも2〜3年ごとの土壌診断をお勧めします。

●園芸品目の診断項目

- ① pH 土壌の酸度を表す
- ② EC 土壌の窒素量を表す
- ③ りん酸 土壌の含有量
- ④ 石灰 土壌の含有量

- ⑤ 苦土 土壌の含有量
 - ⑥ 加里 土壌の含有量
 - ⑦ 腐植 土壌の含有量
- これらの項目を確認することで土中成分の過不足が分かり、施肥量の参考にすることができます。

●土壌のサンプリングの採取方法

水田の土壌診断と基本的には同じですが、野菜栽培圃場では塩類などが土壌表面に堆積しやすいいため、表面から10cm以上、下の土を採取します。

●土壌診断で予測できること

園芸品目の栽培で問題となる「連作障害」は、土壌中の病原菌が主因であると考えがちですが、実は、肥料成分の偏りによる生育不良や特定の肥料成分が蓄積することにより土壌病原菌が増殖し、連作障害につながることも分かっています。

これは、人間も栄養が偏ると病気がちになったり、合併症を引き起こしたりすることと同じです。特に毎年、生育不良が発生する圃場は、これが原因となっている可能性があります。

ます。総合的な対策として土壌診断の実施をお勧めします。

●肥料過剰で発生しやすい病気

- ・根こぶ病 土壌の酸性土壌で多発
- ・青枯れ病 土壌が少ない土壌で発生

●土壌診断の結果を基に「土づくり」

土壌診断の結果が届いたら、処方箋を基に土づくりをしましょう。

腐植を補う肥料の投入、堆肥と相性の良い石灰・りん酸資材を投入して耕起し、冬の寒さにさらすことで土壌の物理性が改善され、生産性の高い土づくりが期待できます。

資材の名称や土壌診断にかかる料金など、詳しくは最寄りのアグリセンターの営農指導員にお問合せください。





野菜づくりで地域を支える
【黒瀬町】神信 桂さん

黒瀬町の神信桂さん(42)は、野菜作りで地域の食と農業を支えています。就農した2014年から小松菜と夏秋ナス、白ネギを組み合わせた栽培を継続。真摯に農業と向き合い、JA産直市「となりの農家黒瀬店」やスーパーの直売コーナーなどへの出荷で地産地消を進めています。

神信さんは勤めていた会社を退職し、2013年から1年間、東広島市園芸センターで研修を受講し、就農しました。小松菜はハウス3棟で年間を通して栽培。今年は5aでナス225本、白ネギを20aで栽培しています。連作障害を避けるため、ナスと白ネギは畑を替えながら栽培しています。

10年以上栽培している作物ですが、異常気象などの影響で栽培が年々難しくなっています。他の生産者と情報交換し、JAの講習会にもできるだけ参加して知識を深め、技術の研鑽を積んでいます。

また、JA青壮年連盟広島中央地区本部の役員を務め、地域農業の担い手である仲間と交流しながら農政活動や農業振興に取り組ん



▲ナスを収穫する神信さん

でいます。西日本豪雨でライフラインが混乱した時も産直市は営業を続け、地元生産者が出荷したことで消費者に農産物を提供することができました。この経験で神信さんは地産地消の大切さを実感しています。資材高騰や高齢化など農業が抱える課題は尽きませんが、神信さんは「地元消費者のためにも好きな農業を続け、地域の農業や農地を守っていきたい」と話します。

Information お知らせ

**広島中央地域
アグリセンター 休日営業のお知らせ**

【10月】

土曜日・日曜日・祝祭日に休日営業を実施します。
営業時間は、午前8時30分～午後5時

なお、11月以降の土曜日・日曜日・祝祭日は休業いたします。
肥料や農薬、生活資材をご自宅にお届けすることも可能です。お近くのアグリセンターにご相談ください。

東広島市
園芸センターより

東広島市花き生産講座受講者を募集しています

**切花トルコギキョウを栽培、
出荷してみませんか？**

- 【内容】トルコギキョウの露地栽培
- 【対象】(1)東広島市在住で市内に耕作地を確保している方
(2)出荷販売を目的に栽培を行なう方
- 【期間】11月から、月1回程度、金曜日の午後中心！
- 【受講料】無料
- 【定員】先着10名
- 【申込期間】10月1日(水)～31日(金)



▲盆や彼岸、咲かせ方はいろいろ！



▲種まきから収穫までを実習

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター
TEL (082)433-4411

